

授業科目名	国語学特論(2100253)		
時間割名	国語学特論(51114)		
時間割担当	桑原祐子		
実施期	前期	単位数	2 選択
曜日・時限	金・1		

授業の目標・概要

日本語の歴史の変遷を中心に講義を行う。文字・音韻・語彙の歴史的变化を中心に日本語の歴史を解説する。古代語から近代語への変化の中で注目される音韻現象、万葉仮名から平仮名・片仮名が生まれる背景、語の発生・変化・受容のプロセスなどを学ぶ。本講義によって、なぜ言語は変化するのかということを考える力を養う。

学習の到達目標

本講義の目標は以下のとおりである。(1)日本独特の文字である平仮名・片仮名の歴史を知る(2)五十音図を中心に据えた音韻変化の理由を考える。(3)語の発生・変化・定着の実態を理解する。(4)言語研究の方法を身につける。

授業方法・形式

講義を中心に行うが、受講生の研究発表を適宜求める。配付資料に沿って、具体的な言語現象について解説を行うが、受講生の積極的な研究発表を求める。毎時間、所見カードの記述を求める。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション 授業の進め方と評価についての説明を行う。
- 第2回 万葉仮名の実態 1
上代文献での万葉仮名の実態を学び、日本語話者がどのように漢字を使いこなしたかを考える。
- 第3回 万葉仮名の実態 2
正倉院文書・木簡等の一次資料における万葉仮名の実態を学び、実用世界の言語事情を考える。
- 第4回 万葉仮名から平仮名・片仮名への変遷
古辞書の仮名表記、古今和歌集の登場を視野に入れて、平仮名・片仮名登場の背景を考える。
- 第5回 上代特殊仮名遣と上代の母音構造 1
万葉集・古事記を資料として、上代特殊仮名遣の実態を解説する。
- 第6回 上代特殊仮名遣と上代の母音構造 2
上代特殊仮名遣の崩壊過程を解説し、言語における母音の変化を考える。
- 第7回 複合語の語構成と音韻変化
語が複合するときの音韻変化に注目し、音韻変化の要因について考える。
- 第8回 新語発生のメカニズム
正倉院文書を資料として、新語が発生し、語形の「ゆれ」の過程を経て定着するまでの課程を学ぶ。
- 第9回 漢語と和語との位相
正倉院文書中の請暇不参解を資料とし、漢語と和語の位相を考える。
- 第10回 和製漢語の生成過程
和製漢語の認定と和製漢語が生まれる背景を、正倉院文書・木簡を通して考える。
- 第11回 漢文と和文
正格漢文による表現と和製漢文による表現を具体的に学び、和製漢文の位置づけを考える。
- 第12回 受講生による研究発表 1
正倉院文書中の請暇不参解・律令公文を素材として、文字に関する研究発表を行う。
- 第13回 受講生による研究発表 2
正倉院文書中の請暇不参解・解移牒案を素材として、語彙に関する研究発表を行う。
- 第14回 受講生による研究発表 3
正倉院文書中の請暇不参解・書状を素材として、表現に関する研究発表を行う。
- 第15回 授業の総括として、これまで学んだことを纏める。

成績評価の基準

定期試験 50%、所見カード 20%、授業への参加度 30%の割合で、総合的に評価を行う。

授業時間外の課題

1. 配布資料を読み、資料や知らない文献について調べておくこと。
2. 配布された言語資料に関する代表的な研究論文などをよんでおくこと。
3. 不思議に思うこと、疑問に思うことは、積極的に質問し、問題提起すること。

メッセージ

基礎科目の内、「国語学入門」「国語学 Ⅰ」「国語学 Ⅱ」を受講した後に、受講することがのぞまれる科目である。

教材・教科書

- ・テキストとして、資料を配付する。

参考書

・参考書：小松英雄『日本語はなぜ変化するか』（笠間書院）犬飼隆『漢字を飼い慣らす』（人文書館）丸山裕美子『正倉院文書の世界』（中公新書）